

# 海を渡る横浜の「歴史を生かしたまちづくり」

国吉直行 (横浜市立大学特別契約教授・都市デザイナー)

桂 有生 (横浜市都市整備局都市デザイン室)



セバランプライ市ブキマタジャン地区

横浜市はマレーシア国セバランプライ市\*から歴史的な景観を活かした都市計画の策定について協力要請があったことを受け、「JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)」に応募、平成27(2015)年7月に採択された。

事業名は「セバランプライ市の歴史・自然を生かしたまちづくりプロジェクト～横浜の都市デザイン」新興国へのノウハウ移転。JICA、横浜市立大学のほか民間団体である「横浜セバランプライ友好委員会」や専門家などと連携し、セバランプライ市の職員に歴史を生かしたまちづくりを

はじめとした都市デザインの手法について技術移転し、かつて交易・商業の街として栄えたブキマタジャン地区旧市街地のモデル的な街並み整備を目的としている。事業期間は平成27(2015)年12月から平成30(2018)年12月までの3か年。これまでに2回の受入研修と6回の

専門家派遣を行っている。

そもそも横浜とセバランプライ市の縁はマイムナー・モハド・シャリフ前市長が、セバランプライ市の対岸にあるペナン市の都市計画職員であったことにある。

昭和57(1982)年に横浜で開催された第1回アジア太平洋都市会議に当時のペナン市助役が参加し、横浜の都市づくりを体感したこと

などをきっかけに「横浜市・ペナン市技術職員交流事業」が調印された。昭和61(1986)年度から交流事業が始まり、「都市デザイン」などのテーマにあわせ、両市の技術職員が相互に3か月間滞在し、共同で課題に取り組んだ。



ジョージタウンキャンベルストリート



セバランプライ市職員受入研修

最初の取組は、ジョージタウン周辺のイギリス・ビクトリア朝期の建築群や1階部分に回廊状の歩行空間を持つショッピングハウスと呼ばれる建築群を保全活用し、地区全体の歩行者ネットワークを形成することであった\*2。この時の交流職員の一人名がマイムナー前市長であり、のちにペナン市の都市計画局長として、平成20(2008)年、ジョージタウンを世界遺産に導いている。

横浜市からの提案活動が多少なりともこの一助となっているとするならば、横浜の「歴史を生かしたまちづくり」が海を渡ったと誇れることもできるであろう。

\*1: セバランプライ市: 人口約86万人(マレーシア第2位)、面積約738Km。アジア屈指のリゾート地であるペナン島(ペナン市)とは橋でつながっている対岸に立地する。

\*2: この提案は平成10(1998)年にマレーシア政府の全額補助事業としてキャンベルストリートで実現した。

## 公益社団法人 横浜歴史資産調査会のとりくみ

YOKOHAMA HERITAGE

### 野毛都橋商店街ビルを保存活用のため当公益社団が取得

弧を描くように大岡川の水面に影を映す「野毛都橋商店街ビル」はまさに野毛のランドマーク的存在の歴史的建造物である。昭和39(1964)年10月に開催された東京オリンピックに合わせ、周辺の屋台等の店舗を収容する施設として建設された。以来、その独特の景観から多くの皆様に愛されてきた。この度、縁あって公益財団法人横浜都市建築助成公社からの寄贈により「野毛都橋商店街ビル」を当公益社団法人横浜

歴史資産調査会が取得することになった。寄贈を前に同助成公社が耐震補強工事や改修工事を実施することによって50数年を経た建物とは思えないほど立派になった。現在、営業中の店舗は60軒、協同組合が管理をおこなっている。今後は、関係の皆様と力を合わせて「野毛都橋商店街ビル」を野毛の歴史的景観の核として末永く保全して参りたい。ぜひ、ご支援、ご協力のほどお願いいたします。



大岡川からの都橋商店街ビル



夜は憩いの場として輝く

### シルクロード・ネットワーク・福島2017フォーラムを開催

- 開催日: 平成29年7月8日(土) 福島市民家園、福島市内の養蚕農家等の視察 同9日(日) 講演・事例報告(於 コラッセ福島)
- 主催: 公益社団法人横浜歴史資産調査会、NPO法人街・建築・文化再生集団(RAC) シルクロード・ネットワーク・ふくしまフォーラム実行委員会
- 共催: 福島民報社、福島市教育委員会
- 後援: 福島県教育委員会、伊達市・二本松市・川俣町・桑折町・国見町の各教育委員会
- 講演: 村川友彦氏(本フォーラム実行委員長)、脇坂隆一氏(国土交通省都市局国際緑地環境対策官)、佐滝剛弘氏(高崎経済大学特命教授)
- 事例報告: 新庄市、鶴岡市、日野市、横浜市緑の協会、入間市、上田市、千曲市、川越市、前橋市、福島市、伊達市、二本松市、国見町、(株)齋栄織物(川俣町)、福島市民家園 ほか
- コーディネーター: 後藤 治氏(工学院大学理事)、米山淳一(当公益社団 常務理事)

シルクロード・ネットワーク協会を発足してから3年、本年のフォーラムは、東北地方の蚕種・養蚕の拠点であった福島市で「信達地方 絹文化をいかしたまちづくり」をテーマとして開催した。フォーラムには全国から会員や福島市民の皆様約120名が参加。福島市長小林香氏の挨拶で福島地方が養蚕で発展した様子を語られ、講演や事例報告を含め会場は熱気に包まれた。見学会では、福島市民家園で「奥州座繰り器」を使用した糸取りや手織りを体感。また、福島市郊外の養蚕農家を訪ねた。晴天にも恵まれ有意義な交流の場となった。なお、来年は山形県鶴岡市で開催予定。



小林香 福島市長の挨拶



大会プログラム



関係者記念撮影

### 「歴史を生かしたまちづくりファンド」への寄附のお願い

「歴史を生かしたまちづくりファンド」は、皆さまの貴重なご寄付によって成り立ちます。「歴史を生かしたまちづくりファンド」に造成された基金は、歴史的資産等の調査、修理、取得、管理、啓発等に関するプロジェクトに使用いたします。

横浜歴史資産調査会は内閣府認定の公益社団法人であり、免税団体です。「歴史を生かしたまちづくりファンド」への寄附金は、税法上の優遇措置(寄附金控除)を受け取ることができます。お申し込みの方は、

事務局まで住所等連絡先をお知らせください。横浜を愛する皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

- 個人: 一口3,000円
- 団体・企業等: 一口100,000円
- 振込先: 横浜銀行 県庁支店 普通口座 6046423 「歴史を生かしたまちづくりファンド」

【お問い合わせ先】公益社団法人横浜歴史資産調査会 事務局 〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号室 TEL / FAX: 045-651-1730 E-mail: yh-info@yokohama-heritage.or.jp

「歴史を生かしたまちづくり相談室」受付中!! 皆様からのご相談をお待ちしています。【連絡先】公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ・ヘリテージ) 内 「歴史を生かしたまちづくり相談室」〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号室 TEL / FAX: 045-651-1730 E-mail: yh-info@yokohama-heritage.or.jp



撮影: 米山淳一

歴史を生かしたまちづくり  
**横浜新聞**  
YOKOHAMA

第33号

平成29[2017]年  
11月30日発行  
Since 1989

## 都橋商店街ビル——野毛の戦後史が刻まれた共同店舗

横浜都市発展記念館 主任調査研究員 青木 祐介

野毛を代表する名店街として、多くのメディアに取り上げられる都橋商店街ビル。大岡川のカーブにあわせて川に突き出した2階建ての建物には、狭い間口の飲食店がずらりとならび、毎晩多くの常連客を集めている。正式名称は「野毛都橋商店街ビル」という。もとは野毛の路上で営業していた露店を収容するために、昭和39(1964)年に建設された共同店舗である。

終戦後の野毛は、横浜最大の露店指定地域であり、多くの人が食料や衣料品などを求めて集まっていた。やがて桜木町駅周辺の都市整備の過程で、露店の整理が議論されるようになり、桜川沿いのカストリ横丁をはじめ一部の店舗は、昭和28(1953)年2月に完成したコンクリートブロック2階建ての共同店舗「桜木町デパート」(のち昭和47(1972)年に解体。現在の桜木町駅前駐車場付近)へと移転した。

しかし、依然として路上では多くの露店が営業しており、道路を不法占拠している状態が続いていた。昭和30年代に入ると、露店の撤去を求める地元商店街組合の運動が活発になり、一向に代替地の調整が進まない状況に不満を募らせた同組合は、市に対して行政訴訟を準備するまでになっていた。

事態が動きはじめたのは、昭和38(1963)年4月に市長が飛鳥田一雄へと交替してからである。当時営業していた60数店舗の露店は、交渉の結果、大岡川沿いの都橋から宮川橋にかけての旧荷揚場へ移転することに合意し、河川敷の上空および道路用地を占用して、「附近環境に適応し、特に美観を損せざるよう商店街を形成する」とこととなった。翌年の東京オリンピック開催までに露店を撤去したい市の意向のもと、昭和38(1963)年中に、軽量鉄骨造2階建ての「野毛宮川町共同商店街ビル(仮称)」の基本設計が完了し、翌39(1964)年から工事が着工した。建設は市の依頼によ

り財団法人横浜都市建築助成公社がおこなった。設計は株式会社創和建築設計事務所で、昭和39(1964)年5月9日付けの図面には、責任者および設計者として吉原慎一郎の名前が記されている。

こうして野毛の露店は、オリンピック開幕直前の昭和39(1964)年10月9日いっばいで営業を終了し、翌10日に露店撤去式がおこなわれた。11月21日には完成したビルの落成式がおこなわれ、1階部分には靴、鞆、衣料品などの売店が、2階部分には喫茶、軽食などの店舗が入り、営業を開始した。東京オリンピックにあわせて建設されたと紹介されることが多い都橋商店街ビルであるが、最終的なタイミングがそうであったにせよ、野毛地区の歴史を振りかえれば、戦災復興期の都市整備で積み残された課題が、東京オリンピックを機会にようやく解決したものであったと理解できよう。

こうした戦後の露店収容建築としては、昭和20年代に東京都の露店整理事業で建設された共同建築が知られるが、上野の山の斜面地を敷地とする上野広小路商業協同組合ビル(通称「西郷会館」、昭和27(1952)年竣工、設計:土浦亀城、平成22(2010)年解体)と同じく、都橋商店街ビルも河川および道路上といういわくで特殊な立地を特徴としている。その敷地の制約を最大限に活かすことで、河川に沿って建物弓型に張り出す独特のかたちが生まれた。

また設計段階から市・公社・露天商のあいだで建物の美観について協議がなされていた点にも目を向けたい。当初は1階2階とも店舗の正面を道路側に向ける案も検討されていたが、最終的には2階店舗の正面を河川側に設定することで、道路側と河川側の両面に表情をもつ建築となった。長さ90mにおよぶ連続した曲面ファサードは商店街としての一体感をう

みだし、吉田町から都橋を渡って野毛にいたる際のアイキャッチとして、魅力的な景観をつくりだしている。

この都橋商店街ビルが、昨年横浜市の歴史的建造物に登録された。戦後建築としては横浜市内で初めての登録である。竣工から50年以上が経ったのであるから、年月だけを見れば立派な歴史的建造物であるが、戦後建築の登録第1号と聞くと、やや意外な感じを受けるかもしれない。

横浜の戦後建築といえば、まさきに神奈川県立音楽堂・図書館(昭和29(1954)年竣工、設計:前川國男)や横浜市庁舎(昭和34(1959)年竣工、設計:村野藤吾)などのモダニズム建築を思い浮かべる人は多いのではないかと。また東京の国立西洋美術館(昭和34(1959)年竣工、設計:ル・コルビュジェ)が世界遺産に登録されたことで、それまで建築に関心がなかった人びとも戦後のモダニズム建築の存在が知られるようになったであろう。

一方で、建築はつねに人びとの営みとともにあるのだから、その歴史的評価には設計者の固有な名詞や造形・理念・技術だけではなく、その建築が生み出された地域や社会への視点が不可欠であろう。都橋商店街ビルの場合は、露店整理という野毛特有の時代背景をもとに誕生した建築であり、その歴史性は特殊な立地と造形に端的に表れている。そして飲食街としての野毛の発展とともに、現在も地域に根ざし、人びとから愛されている。人びとから愛されなければ、どんな建築でも後世に伝えることは難しい。

このたび都橋商店街ビルは、歴史的建造物として保存活用のため、あらたに公益社団法人横浜歴史資産調査会の所有となった。野毛の戦後史が刻まれた歴史的建造物として、都橋商店街ビルの灯がこれからも輝き続けることを期待したい。

# 開館100周年 横浜市開港記念会館を祝う



大正6(1917)年7月1日に開館した横浜市開港記念会館は、平成29(2017)年に100周年を迎えた。

平成29年は、中区制90周年にもあわせて設置された「中区制90周年・開港記念会館100周年記念事業実行委員会・開港記念会館100周年部会」の委員が中心となり、記念誌の発行や様々な記念イベントを実施した。

記念事業は100周年前年、平成28(2016)年7月3日のプレイベントからスタートした。

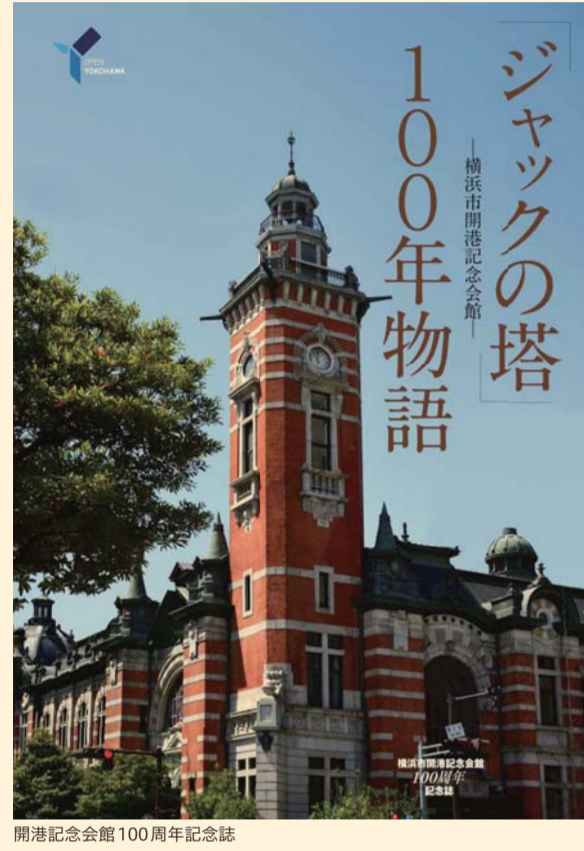
平成29(2017)年3月11・12日には、恒例となっている「横浜三塔の日」イベントを拡大開催し、普段は非公開の地下室でパネル展示やトークショーを開催した。

平成29(2017)年7月1日には、開港記念会館100周年記念誌「ジャックの塔」

平成29(2017)年は7月1日から31日までで「開港記念会館100周年記念月間」と位置づけ、記念式典及び記念フォーラムを皮切りに、開港記念会館で様々なイベントを開催した。記念式典では、これまで開港記念会館に貢献いただいた方々に市長感謝状を贈呈し、記念フォーラムでは、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館副館長の西川武臣氏から「横浜市開港記念会館と本町の歴史」と題した講演をいただき、アナウンサーの渡辺真理氏をはじめ開港記念会館に関わりの深い方々による座談会を開催した。各登壇者からは、本町通りを中心として、地域全体で歴史的建造物を保存活用し、次の世代に伝えていくことを考えていきたいとの話をいただいた。

2階6号室では、期間限定(7月1日～23日)のカフェ&バー「ワンハンドレット倶楽部」がオープンした。横濱三塔協議会が運営し、横濱ハーバー100周年記念限定パッケージ(株式会社ありあけ)や株式会社三陽物産と横浜市立大学が産学連携で企画し製作した開港記念会館オリジナルタンブラー(100個限定)、記念スイーツの販売、週末には横浜ビールを提供する新しい試みも行い、23日間で約1,400名の方にお越しいただいた。そのほか記念月間では、タンゴやオペラ、キューバ音楽、童謡等のコンサートを毎週末開催し、横浜商工会議所による歴史展示や市民がレゴブロックで製作した開港記念会館を展示し、多くの方にご来場いただいた。

1世紀にわたり港・横浜のシンボルとして市民に愛されてきた横浜市開港記念会館がこれからもより一層愛され続けられるようにしていきたいと考えている。  
[文:横浜市中区地域振興課]



100年物語(税込1,500円)を発行した。開港記念会館建設前の町会所の時代まで遡り、開港記念会館の誕生、関東大震災からの復興、空襲、接収、返還、返還後の存廃論、平成元年の屋根ドームの復元、国の重要文化財指定と、1世紀に渡る開港記念会館の歴史を写真中心に読みやすい文章でまとめているほか、貴重な絵葉書の特集、和田英作の2枚の壁画やステンドグラスの修復、ライトアップなど様々なエピソードが散りばめられ、読み応えのある充実した内容となっている。開港記念会館をはじめ市内内外の書店等で販売しているので、是非お手元において資料として活用していただきたい。

## 川和の豪商「中山恒三郎家」の建造物を調査

横浜市都筑区川和町に、旧家・中山家の屋敷地がある。平成27(2015)年度から文書を中心とした資料の調査が、平成28(2016)年度から建造物の調査がそれぞれなされ、「書院」と「店蔵」は今後の保全活用に向けた調整が進められている。

中山恒三郎家は、江戸時代から都筑郡川和村に居住した中山一族の流れを引く家で、幕末期に初代恒三郎が中山本家より独立し「新宅」となった家で、現在の当主は6代目にあたる。

中山恒三郎家は、菊の栽培で知られ、新種の育成に努め、菊を当時の宮内省に献納した。菊花展(観菊会)には東京や横浜市街をはじめ、遠方からも多くの人々が足を運ぶなど、各界との交流を深めたという。また、江戸時代に酒類販売、呉服太物、荒物雑貨の営業を開始し、明治期に入ると醤油醸造、塩・煙草の販売も手掛

け、さらに、製糸場を運営する太陽合資会社を設立し生糸を生産するなど、横浜の地域経済の発展にも大きく貢献した。

中山恒三郎家所蔵の昭和10(1935)年の家屋配置図によると、敷地南側の庭園をL字型に囲むように、東側に「本邸(主屋)」「書院」「醬油工場」が、ほかに複数の倉(蔵)が配置されており、平成28(2016)年に横浜市職員が建造物調査に入った時点とほとんど変わらない。

平成27(2015)年度から公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団(横浜市歴史博物館・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館、以下「ふるさと歴史財団」)によって、書院や店蔵等の敷地内に保存されてきた古記録・写真や道具などの資料の調査が始まった。その数は数万点にも及び、現在は横浜開港資料館等で保管され、将来の公開に向けて整理が進められている。今

後、整理が進む過程で貴重な記録が見出される可能性が非常に高い。

平成29(2017)年4月に、中山恒三郎家とふるさと歴史財団の主催で、主な資料を初公開するプレス発表会が、川和町の中山恒三郎家敷地内において開催された。

平成28(2016)年9月に、横浜都市発展記念館等の専門家メンバーによって、「煉瓦造倉庫」の詳細調査が実施され、また、平成29(2017)年6月に、横浜市歴史的景観保全委員・横浜国立大学等のメンバーによって、「書院」と「店蔵」を中心とした建造物等の詳細調査が実施された。

【煉瓦造倉庫】煉瓦造の壁4面と床に火炉を2つ、木造小屋組の屋根を備えた倉庫が「諸味倉(蔵)」の北隣にある。なお、詳細は平成29(2017)年3月にふるさと歴史財団から発行された「横浜都市発展記念館 紀要 第13号」に調査報告が記載されている。

【書院】書院造の12畳二間と部屋三方を広縁で囲んだ近代和風建築で、平成28(2016)年に敷地の東側から庭園を挟んで東側に移築され、当主の書斎などに使われている。家伝によると、「近郊の



「中山恒三郎家」活用が検討されている店蔵

「中山恒三郎家」煉瓦造倉庫



「中山恒三郎家」敷地内で移築した書院

軍演習場を視察された宮様がお泊りになるため」に特別に建てたという。中山恒三郎家の菊を観賞するために訪れた皇族はじめ著名人などの客殿として使用された。戦後も園遊会など特別な機会にのみ使用されてきた。

【店蔵】1階の一部に店舗機能を備えた、2階建て土蔵造りの店蔵で、横浜市内に残されている蔵としては珍しい。当初は表面や2階壁面等は白色だったが、戦時中は墨で黒く塗られ、今もその様子が見られる。

今後、建造物の積極的な活用が予定されており、地域の歴史的景観が甦ること大きな期待が寄せられる。

## 歴史を生かしたまちづくりセミナー Vol.40

### 「震災復興橋梁 in 大岡川」を開催

平成29(2017)年9月9日(土)に「歴史を生かしたまちづくりセミナー Vol.40」が開催された。主催は公益社団法人横浜歴史資産調査会と横浜市都市整備局。

今回のセミナーは、近年の講演会形式とは趣を変え、橋を川面から眺め、その景観、構造、用途等、橋を幅広く知ってもらい、知識を



長者橋

深めてもらうことをテーマとして行われた。その中でも震災復興橋梁に焦点を当てている。

当日集まったのは総勢60名(応募者多数のため抽選)。人数制限を設けたのは船によるクルーズを行うためで、2便の運行(1クルーズ30名定員)が行なわれた。当日のセミナープログラムは、初めに主催者挨拶(公益社団法人 横浜歴史資産調査会 会長 宮村忠氏、副会長 吉田綱市氏、横浜市都市整備局企画部都市デザイン室長 梶山祐実氏)があり、ミニレクチャー、パネル展示見学後、クルーズ体験という行程で行われた。場所は黄金町高架下スタジオ Site-D (集会所)。

ミニレクチャーは「震災復興橋梁～横浜の復興を支えた橋～」と題して関東学院大学理工学部教授・横浜市歴史的景観保全委員でもある中藤謙二氏による講演で、約20分の短時間ではあったが、横浜の震災後の復興に橋がいかにして架け

られたかを、資料等を咀嚼しながら説明していただいた。同氏からは、古いものを残していくには地域で活用されていることが大事な観点になるということが強調された。

パネル展示は会場内に設営され、橋梁の建造当時の写真や設計図、構造図等が展示され、参加者も興味深く見学した。

続いて大岡川・中村川・堀川クルーズ体験に移動。行程は会場近くの日ノ出棧橋からクルーズ船に乗船し、大岡川→中村川→堀川→横浜港→大岡川→日ノ出棧橋のコースで回遊し、途中に架かる橋梁を見上げながら、横浜市道路局建設部橋梁課飯塚陽生氏から詳細な説明を伺い、約1時間半のクルーズを楽しんだ。

参加者たちはクルーズを楽しんだ後、橋を下から見るという初めての経験に感銘を受けた様子で、異口同音にそのことを語りながら日ノ出棧橋を後にしていたのが印象的であった。



セミナー会場



展示資料を見入る参加者

## 帆船日本丸が国の重要文化財に指定されました 海上保存帆船としては我が国初の重要文化財

帆船日本丸は平成29(2017)年3月10日に開催された文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受け、同年9月15日に国の重要文化財として指定を受けた。指定の評価ポイントとしては、帆船日本丸が長い期間にわたり船員養成の任を担い、我が

国の海運業の発展に貢献した点と、現存希少な戦前期建造の船であり、建造当時の構造、装飾をよく伝え、わが国の海運史、造船技術史等研究上に貴重である点が挙げられている。



帆船日本丸

名称及び数量:日本丸 一艘	
進年	昭和5(1930)年1月
製造所	株式会社川崎造船所製
船種	帆船(4楯パーク型)
用途	練習船
総トン数	2,278.25トン
全長	97.05m
幅	12.95m
所有者	横浜市

## 旧関東財務局横浜財務事務所の活用がスタート

### 横浜DeNAベイスターズが運営する THE BAYSがオープン

横浜市指定有形文化財である旧関東財務局横浜財務事務所(旧日本綿花横浜支店事務所棟:昭和3(1928)年築)について、創造産業の集積を推進し、にぎわいの創出及び経済の活性化につなげる中核施設として活用するため、横浜市が活用事業者を公募し、複数の応募者の中から選考の結果、「株式会社横浜DeNAベイスターズ」が活用事業者選ばれ、平成29(2017)年3月18日(土)に

「THE BAYS(ザ・ベイス)」としてオープンした。建物の外観は建設当時の姿を残し、内部は1階はショップとカフェ、地下1階はフィットネススタジオ、2～3階はシェアオフィス・会議室、4階は事務所としてリノベーションされ活用されている。また、日本大通りでは3店目の路上オープンカフェの出店となり、日本大通りににぎわいの創出に大きな期待が寄せられている。



## 歴史的建造物の受賞続々

積極的に活用されている歴史的な建造物や街並みが、魅力的な都市景観をつくっているものとして、続々と表彰を受けている。

第8回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門では、神奈川県庁本庁舎と横浜市開港記念会館の中間点にある明治期築の煉瓦造建築物の一部を保存整備し公開した



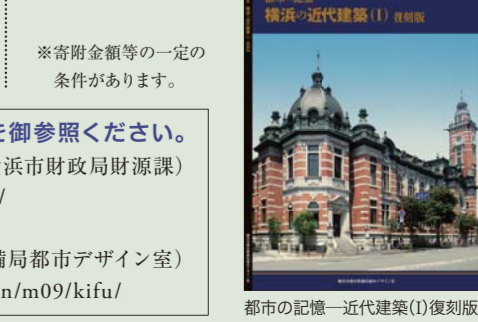
「旧開通合名会社煉瓦遺構」と、開港広場に隣接し、外観は往時の姿を保ちつつ現代の設備を追加する外観保全の工事を行った「横浜海岸教会」が受賞した。また、第1回横浜サイン賞では、日本大通りの「KN日本大通ビル(旧三井物産横浜支店)」1階の画廊「GALERIE PARIS(ギャラリーパリ)」と、同じく日本大通りの「横浜情報文化センター(旧商工奨励館)」1階のレストラン「LUNCHAN AVENUE(ランチャンアベニュー)」の看板が表彰を受けた。

## 横浜市のふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」を応援してください!

横浜市では、歴史的景観の保全や建造物の活用を支援するための新たな財源として、平成28(2016)年度から「ふるさと納税(横浜サポーターズ寄附金)」も導入しています。

景観上重要な歴史的建造物を使い続け、街づくりに生かすための「リノベーションに対する助成金(中間支援組織への助成制度)」や街なかの歴史的建造物を紹介する「サイン・説明板」の設置などに充てていきます。

毎年納税している市民税・所得税の使い道を、ご自身で選べる制度とも言える「ふるさと納税」で、「歴史的景観保全活用事業」を応援してください。なお、寄附いただいた方々には、歴史を生かしたまちづくり広報冊子(平成29年11月現在は「都市の記憶—近代建築(Ⅰ)復刻版(非売品)」)をお渡ししています。



※寄附金額等の一定の条件があります。

制度等の詳細は、横浜市のウェブページを御参照ください。  
●横浜サポーターズ寄附金～ふるさと納税～(横浜市財政局財源課) <http://www.city.yokohama.lg.jp/zaisai/kifu/>  
●横浜サポーターズ寄附金～ふるさと納税～「歴史的景観保全活用事業」(横浜市都市整備局都市デザイン室) <http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/design/m09/kifu/>